

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の上演パターン

○坂部 裕美子

(公益財団法人 統計情報研究開発センター)

The performing patterns of the Kabuki 'Kanadehon Chushingura'

Yumiko Sakabe

Statistical Information Institute for Consulting and Analysis

要旨:

「仮名手本忠臣蔵」は現在も人気の高い演目だが、全十一段の物語の中から、幕数や場面がこれまでどのように選ばれて上演されてきたのかを、歌舞伎公演データベースを使って集計する。

キーワード: 仮名手本忠臣蔵、上演データベース、
kindex関数、kcompress関数、
freqプロシジャ、transposeプロシジャ

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」

二代目竹田出雲・三好松洛・並木千柳作、
寛延元年(1748年)初演

ランク	演目名	度数
1	仮名手本忠臣蔵	674
2	義経千本桜	383
3	菅原伝授手習鑑	257
4	口上	201
5	勧進帳	187
6	京鹿子娘道成寺(「二人道成寺」含む)	162
7	春興鏡獅子	123
8	藤娘	114
9	天衣紛上野初花(「直侍」含む)	113
9	青砥稿花紅彩画	113

- ・ 「歌舞伎三大狂言」の一つであり、演目別上演回数が最多の演目
(筆者が「歌舞伎公演データベース～戦後から現代まで」の元データとなった上演データベースを用いて行った集計の結果)
- ・ 赤穂藩主・浅野長矩が江戸城内で吉良義央へ刃傷に及び、その結果お取り潰しとなった赤穂藩の元家老・大石良雄を初めとする元藩士四十七名が、亡き当主に代わり吉良邸へ討ち入った、いわゆる「赤穂事件」を題材に作られた作品。同じ題材の作品は幾つかあるが、その中でも最も有名である。ただし、当時の徳川幕府を憚って、室町時代の話に置き換えられている。
- ・ 基本的には全十一段構成

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」

上演幕一覧

大序	鶴ヶ岡社頭兜改め
二段目	桃井館力弥使者/松切り
三段目	足利館門前進物/足利館松の間刃傷/足利館裏門
道行旅路の花聲 (1883年初演の舞踊)	
四段目	扇ヶ谷塩冶判官切腹/扇ヶ谷表門城明渡し
五段目	山崎街道鉄砲渡し/山崎街道二つ玉
六段目	与市兵衛内勘平腹切
七段目	祇園一力茶屋
八段目	道行旅路の嫁入
九段目	山科閑居
十段目	天河屋
十一段目	高家表門討入/高家奥庭泉水/高家炭部屋本懐/両国橋引揚

以下にも詳しい紹介があります

歌舞伎演目案内—仮名手本忠臣蔵
(日本俳優協会)

<http://enmokudb.kabuki.ne.jp/repertoire/2071>

文化デジタルライブラリー 仮名手
本忠臣蔵(国立劇場)

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/exp1/index.jsp>

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」

通し上演が多いが、部分上演も頻繁に行われる

- ・ 早野勘平の悲劇のみ(五段目・六段目)
- ・ 一力茶屋の場面のみ(七段目)
- ・ 山科閑居のみ(九段目)、もしくはその前(八段目)からの連続
- ・ 単幕の舞踊作品として
 - 道行旅路の花髻(落人)
 - 道行旅路の嫁入り(八段目)

など

通し上演においても、幕の選択や上演順に若干の違いがある

1. 近年の上演について

「歌舞伎公演データベース～戦後から現代まで」を用いた集計

(<http://www.kabuki.ne.jp/kouendb/>
ただし、巡業データは除く)

1946～2010年の上演分を集計

- データは「1幕1レコード」なので、「同一年月同劇場の公演」の内容をそれぞれ確認する



集計手順

1 「場名・通称」項目をkindex関数で調べ、どの幕の上演かを判断し「dan」変数に結果値を入れる

※「五段目」「六段目」が個々の幕として記録されている場合以外に、「五・六段目」と1レコードにまとめられている場合が多数ある

→「五・六段目」表記の場合はここでdanを「0506」としてしまふ

※「三段目」や「四段目」の内容を二幕に分けて上演している場合がある

→nodupkeyオプションありでdanをsortしておく(配役違いで重複収録されているデータもここで削除される)

VIEWTABLE: Work.Dat03

	played	theatre	_NAME_	COL1	COL2	COL3	COL4	COL5	COL6	COL7	COL8	COL9	COL10
1	1945/05	I	dan	08									
2	1945/06	P	dan	09									
3	1946/06	P	dan	08									
4	1946/11	O	dan	AA									
5	1947/01	F	dan	AA									
6	1947/01	P	dan	AA									
7	1947/02	O	dan	AA									
8	1947/11	O	dan	01 03	04	AA	0506	07	09				
9	1948/02	I	dan	01 03	04	AA	05	06	07	09			
10	1948/02	P	dan	01 02	03	04	AA	05	06	07	09		
11	1948/05	F	dan	01 03	04	AA	0506	07	09				
12	1948/09	C	dan	01 02	03	04	AA	05	06	07	09		
13	1948/10	I	dan	01 03	04	05	06	07	08				
14	1949/01	P	dan	01 02	03	04	05	06	07				
15	1949/02	O	dan	AA	07								
16	1949/09	M	dan	AA	05	06	07						
17	1950/03	O	dan	01 03	04	AA	0506	07	08				
18	1950/10	C	dan	01 03	04	AA	05	06	07	08			
19	1950/11	I	dan	01 02	03	04	05	06	07				
20	1950/12	R	dan	01 03	04	AA	05	06	07	08			
21	1950/12	P	dan	AA									
22	1951/06	I	dan	09									
23	1951/10	I	dan	AA									
24	1951/11	A	dan	01 03	04	AA							
25	1952/05	A	dan	AA									
26	1952/09	A	dan	07									
27	1952/12	R	dan	01 03	04	AA	05	06	07	11			
28	1952/12	R	dan	07									

2 同一年月同劇場の上演でproc transposeし、上演されたdanをつなげて、その上演回のパターンを表す文字変数「jouen」を作る

3 「jouen」の度数分布を調べる

集計結果

上演された箇所	回数	上演された箇所	回数
落人(道行旅路の花聲)のみ	40	八段目のみ	14
七段目のみ	22	大序・三・四・落人・五・六・七・八段目	5
九段目のみ	19	大序・三・四・落人・五・六・七・九段目	4
大序・三・四・落人・五・六・七・十一段目	19	大序・二・三・四・落人・五・六・七・九・十一段目	4
五段目・六段目	15		

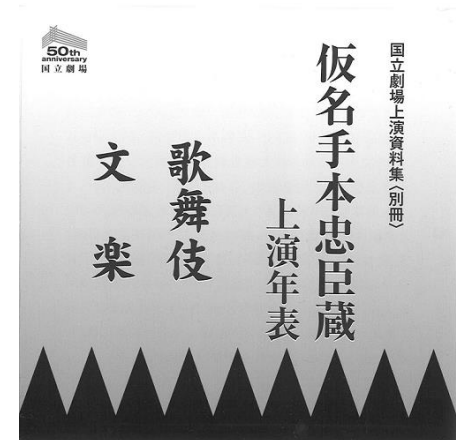
- ・ 「上演パターン別集計」では、1幕単独上演が上位となる
→ 上演回数が多いという結果が出たのは、「通し上演が多いから」とばかりも言えず「人気の上演幕を含んでいるから」という理由も考えられる
- ・ 通し上演に際して選ばれる幕は「大序・三・四・落人・五・六・七・十一」という構成が抜きん出て多い
→ 実際に、近年の通し上演はほとんどがこのパターンである

2. これまでのすべての上演について

「国立劇場上演資料集〈別冊〉 仮名
手本忠臣蔵 上演年表」を用いた集計
(「歌舞伎」篇のExcelファイルを使用)

1748～2016年の上演分を集計

- ・ データは「1公演1レコード」なので
「上演外題」欄の内容を確認するのみ



集計手順

- 1 「上演外題」に上演箇所の記事がないものと、現行台本に当てはまらない場面の上演と思われるもの(「銘々伝」等)を削る
- 2 通し上演と見なせる内容のjouenに「0102030405060708091011」を入れる
※「拾一冊」「廿二段」「二十三まく」等、実際の書き方はばらばら
※11以上の段数が記載されているもの(古いデータに多い)もあるが、便宜上すべて「全段上演=01から11の上演」と見なす
- 3 「××から××まで」の形で記述された上演データを抽出し、該当分についてのjouenを適宜作成
※「Dまで」は大序からDまで、「AからDまで」はABCD全幕上演と仮定
※処理プログラムの開発も検討したが、表記形式が少数件数ずつばらばら「から」「より」の混在／ひらがな・カタカナ・漢字表記の混在(「まで」「マデ」「迄」)
／通称名(例:三段目を「殿中」、七段目を「茶屋場」)表記の混在
→一括処理が難しいため、結果的にほぼ目視と手入力

集計手順

- 4 通称名での記載をtranwrdで漢字表記の段数に置換し、kcompress関数を用いてデータの中身を段数のみにする
※この結果一部で「十一十一」になってしまうケースがあるので修正する。

- 5 ここまでのプログラムで処理できずに残った文字データの内容に基づいて、上演箇所を追加修正入力する

※部分上演であっても上演扱いとする

※現行形式で上演されない幕は「対象外」とする

(浪曲で有名な赤垣伝、歌舞伎の別作品「松浦の太鼓」

「土屋主税」、その他「植木屋」「本蔵下屋敷」「清水一角住居」

など。上演があってもjouen作成時には考慮しない)

- 6 段数を数字に変換し、jouenを作る

※「十一」は一括変換の前に別の文字に置換し(「十」と混同しないため)、後で「11」に戻す

	title	jouen
672	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・四・五・六・七	01020304050607
673	疾名手本忠臣蔵◆大序・三・落人・四・本蔵下屋敷・七	010203AA0407
674	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・四・五・六・七	01020304050607
675	疾名手本忠臣蔵◆九	09
676	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・四・五・六・七・九・十一(掛)	010203040506070911
677	疾名手本忠臣蔵◆富士屋(伝◆大序・二(三蔵門外)・四(自由存在家)・六代	010203040711
678	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(三(殿中)・四・五・六・七・八・九・十・十一	0102030405060708091011
679	疾名手本忠臣蔵◆大序・三・四・五・六・七・八・九・十・十一	01030405060708091011
680	忠臣蔵◆九	09
681	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・四・五・六・七・八・九・十・十一	01020304050607080911
682	忠臣蔵◆七(掛)	01020304050607
683	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・四・五・六・七	01020304050607
684	疾名手本忠臣蔵◆大序・二・三・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
685	忠臣蔵◆七	07
686	疾名手本忠臣蔵◆大序・二・三・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
687	疾名手本忠臣蔵◆大序・三(裏門外)・四・五・六・七・九・十・十一	010304050607091011
688	忠臣蔵◆三・四・五・六	03040506
689	疾名手本忠臣蔵◆大序・二・三・四・五・六・七	01020304050607
690	疾名手本忠臣蔵◆大序・二・三・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
691	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(掛(舞臺)の健長寺)・三・四・五・六・七	01020304050607
692	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・四・五・六・七・九・十・十一	01020304050607091011
693	いらばり巴合戦◆大序(舞臺)・同(若岩館)大附録◆大序・二(健長寺)・三・四・	01020304
694	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(殿中)・四・五・六・七・本蔵下屋敷・九	0102030405060709
695	疾名手本忠臣蔵◆大序・三・四・五・六・七	010304050607
696	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・落人・四・五・六・七・九	010203AA0405060709
697	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・四・五・六・七・本蔵下屋敷	01020304050607
698	疾名手本忠臣蔵◆幕原伝(櫻手留置)◆組合九幕◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)	0102030406
699	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
700	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・落人・四・五・六・七・九	010203AA0405060709
701	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(裏門外)・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
702	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三(裏門外)・落人・四・五・六・七	010203AA04050607
703	疾名手本忠臣蔵◆大序・二(健長寺)・三・四・五・六・七	01020304050607
704	疾名手本忠臣蔵◆落人	AA

- 7 「jouen」の度数分布を調べる

集計結果

上演された箇所	回数	上演された箇所	回数
大序～十一段目(全段通し)	389	五段目・六段目	54
大序～七段目	103	九段目のみ	48
落人(道行旅路の花聲)のみ	97	大序・三・四・五・六・七段目	40
大序～九段目	71	大序・三・四・落人・五・六・七・十一段目	32
七段目のみ	64	八段目のみ	28

- 全段通し上演が圧倒的に多い
→ 初演前後の時代は通し上演が「基本上演形態」である
- 「道行旅路の花聲」は初演が遅いにもかかわらず全期間で見ても回数が
多い
- 近年も回数の多い「七段目のみ」「八段目のみ」「九段目のみ」「五段目・六段
目」は、対象を全期間に拡張しても上位となっている

通し上演の幕選択の傾向

1 「道行旅路の花聳」の上演位置

城明け渡しの後には上演し、これを昼の部の終幕とするパターンが多いが、本来の時間順では喧嘩場の直後で大石到着の前であり、この順序に則った上演も存在する。

2 最後の幕の選択

終戦前後までは九段目で終わるパターンが多かったが、近年は九・十段目を飛ばして十一段目で終わることが多い(総上演時間の都合か?)。本来の歌舞伎のセオリーで行くと、九段目で終わるのが正しいスタイルとも考えられ、十段目以降は演出に一部「こなれていない部分」も存在する。

3 上演機会の少ない「二段目」

加古川本蔵と桃井若狭之助の関係、力弥と小浪の婚約などが描かれる場面だが、他の幕の内容から推測が可能であるためか省かれることが多い。

興味深い上演パターンの例

1 「大序・三・四・五・六・七・九・十一」

現・坂田藤十郎が高師直・大星由良之助・早野勘平・与市兵衛・斧定九郎・寺岡平右衛門・戸無瀬の七役を早替わりで演じた際のもの。
自分で自分を殺したり、自分のところへ自分が訪ねてきたりと忙しい。

2 2008年10月平成中村座公演

「大序・三・四」+「五・六・七・十一」／「大序・二・三・八・九」+「五・六・七」の2パターンを日替わりで公演した。「大序・二・三・八・九」は「加古川本蔵篇」とも言える珍しいパターン。

3 「大序・三・十一」

高師直篇と言えないこともないが、悪人が無垢な善人をいじめて困らせた後、突然何の説明もなく現れたカッコいいヒーローにやられてしまう、という、まるで東映の特撮物のようなストーリー展開で終演となる、らしい。

参考文献

- ◆伝統芸能興行データ集計・その一里塚(9)「仮名手本忠臣蔵」の上演パターン
「ESTRELA」2016年1月号 pp.34-37
- ◆伝統芸能興行データ集計・その一里塚(14)国立劇場作成データを用いた
「忠臣蔵」上演回数集計
「ESTRELA」2017年1月号 pp.28-31
- ◆「国立劇場上演資料集<別冊> 仮名手本忠臣蔵 上演年表 歌舞伎・文楽」
CD制作に至るまで
(国立劇場のデータCDの制作経緯を当時の調査記録課長へヒアリングした内容をまとめたもの)
「ESTRELA」2017年6月号 pp.16-19